

2006年5月15日

所謂「足利銀行受け皿銀行」問題に関する意見書

株式会社 開倫塾

代表取締役社長 林 明夫

1. はじめに

栃木県経済を震撼させた足利銀行の一時国有化問題は、財務省をはじめとする政府、栃木県、各市町村、各議会、商工中金や政策投資銀行・保証協会をはじめとする政策金融機関・栃木銀行をはじめとする民間金融機関、事業再生機構をはじめとする再建団体、栃木県経済同友会や栃木県経営者協会・栃木県生産性本部・連合をはじめとする経営者団体・労働組合、これに加えて栃木県民の広範な理解と支援、そして何よりも池田頭取の強力なリーダーシップの下での足利銀行全職員の血の滲むような努力、更には、不良債務と認定された債務をもつ企業自身の再建へ向けての文字通り「一所懸命(一つの所に命を懸ける)」な取り組みのお陰様で、今日を迎えることができました。

県民の一人として、関係の皆様、とりわけ財務省のご理解とご努力に対して、心から感謝申し上げます。有り難うございました。

今後残された最大の課題は、所謂「足利銀行の受け皿銀行」に関する問題であります。そこで、失礼とは存じますが県民の一人として意見を述べさせていただきます。

2. 自主再建、最終的には再上場が全県民の願望

(1)もし可能であるなら、池田頭取を先頭に全行員も懸命の努力をし、また、経済界や全県民もそのことを十分理解し、足利銀行を支えているので足利銀行にもうしばらくお時間を頂き、自主再建への道を開いて頂きたい。そして、もし可能であれば、再上場までのお時間を頂きたい。

これが私だけではなく全県民の願望であろうかと存じます。困難なこととは存じますが、是非政府の皆様にお伝え頂き、お考え頂きたく切望いたします。

(2)ただ、既定の方針通り「受け皿銀行」にお引き受け頂かねばならない場合には、以下の諸点を「受け皿銀行」には、是非お考え頂ければ幸いです。

(ア)「足利銀行」という名称は変更しない。

栃木県民に親しまれ、また栃木県経済の象徴、栃木県の誇りでもあり、友愛義団の輝かしい歴史をもつ「足利銀行」という行名は変更しないようお願い申し上げます。

(イ)現在の貸出先への融資は維持、継続する。

足利銀行に育てられ、起業し、事業経営させて頂いてる企業にとり、受け皿銀行による融資がストップすることは、死活問題を意味します。是非融資の継続をお願い申し上げます。

(ウ) 足利銀行従業員の雇用の維持。

一時国有化以来、辛苦を味わいながら歯を食いしばって再建に励んできた行員の皆様の雇用は、是非維持して頂きたいとお願い申し上げます。

(エ) しかるべき時期の再上場を目指させて頂きたい。

栃木県民の願いは、足利銀行の再上場であります。再上場のその日まで、受け皿銀行は足利銀行を他に経営譲渡することは絶対避けて頂きたい。

(オ) 再上場後、しかるべき時期に受け皿銀行は、足利銀行による100%自主経営の道をお開き頂きたい。

足利銀行が一人立ちできるまで受け皿銀行にはご支援頂き、再上場後、しかるべき時期に100%自主運営させて頂ければ、県民としてこれにすぎる喜びはありません。

3. おわりにー足利銀行一時国有化の原因の一つはガバナンスの欠如ー

(1) 足利銀行一時国有化の原因の一つは、ガバナンスの欠如であると確信します。私自身幾分かは気は付いてはいたものの、我が身を呈してガバナンスの必要性を足利銀行の経営幹部に説き、国有化をストップすることはできませんでした。私自身が足利銀行のガバナンス構築に向けて何もしななかったことについて、地元経済界に身を置かせて頂いている者の一人として非常に申し訳なく思い責任を感じております。

(2) 今後は、特定の個人を非難するというのではなく、なぜ一時国有化に到ったのかの原因を究明し、再発防止をどうするか企業の社会的責任の見地が「コンプライアンス」や「ヒューマン・エラー」の研究がまたれます。

(3) 今後、足利銀行においては、コーポレートガバナンスの徹底のためのしくみを今以上に構築し、「透明性」担保した上で「説明責任」などを遂行しながら経営者が誤った意思決定に陥らない制度設計をすることが求められると考えます。

以上、失礼とは思いますが、折角の機会ですので意見を述べさせて頂きました。ご高覧の上、ご批判賜れば幸いです。

以上